

**DENSO**

社 会 貢 献 活 動

年次報告

2002

デンソーは、「社会の共感を呼ぶ企業づくり」の実現をめざし、  
社会と共生する企業市民として、さまざまな活動を展開しています。  
本レポートでは、2002年度に行った活動の成果について詳しくご紹介しています。

## 取り組みにあたっての考え方(重点施策)

デンソーらしさを活かしながら、より社会からの共感を得ることができるよう、  
3つの重点分野を設け、活動内容の充実に取り組んでいます。

重点分野:「障害者福祉」「青少年育成」「環境保全」  
活動形態:「寄付協賛」「自主企画プログラム」「ボランティア支援」

～ 重点3分野(障害者福祉・青少年育成・環境保全)の活動内容充実 ～

### 障害者福祉

『アジア車いす交流センター』の事業立ち上げとNPO法人としての自立化

### 青少年育成

モノづくりと創造性啓発プログラムの企画・推進

### 環境保全

環境教育プログラムの企画・推進

～ 社員の自主的な社会参加活動の浸透と定着 ～

社員有志によるボランティアグループ「デンソーハートフルクラブ」の活性化  
(ボランティア活動への参加者の拡大)

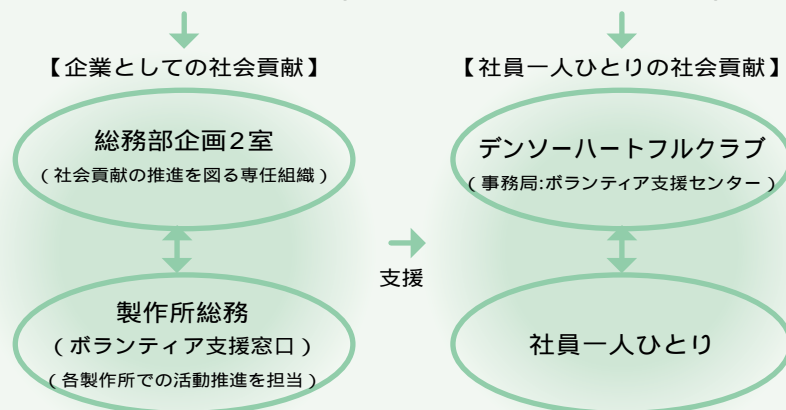
～ 活動の情報開示と評価の充実 ～

情報開示:活動内容の積極的な情報開示による、地域社会とのコミュニケーションの充実  
活動評価:外部の客観的評価も含めた「評価システム」の確立

## 推進体制

社会貢献活動に関する会議体『社会貢献活動委員会(事務局:総務部)』を組織しています。  
社会貢献活動のあり方や活動推進について審議検討し、具体的な取り組みに結びつけていきます。

社会貢献活動委員会(全社の方向性を審議・検討)



# 障害者福祉



特定非営利活動法人(NPO法人)

## 「アジア車いす交流センター(WAFCA)」(Wheelchairs and Friendship Center of Asia)

1999年4月に設立。車いすの普及活動を通じてアジアの障害者が自立できる環境づくりを行うこと、スポーツ・教育分野における支援を通じてバリアフリー社会の実現に寄与することをめざしています。2002年度は他のNGOと連携して、新しいプログラムを展開するなど、活動内容の更なる充実を図りました。WAFCAの活動概要は、インターネットのホームページでも紹介しています。(アドレス: <http://www.tns.ne.jp/wafca/>)

事業	実施日	内容
車いす生産支援と普及事業	4月~	タイ障害者財団の車いす工場「Thai Wheel」の生産支援活動(デンソータイランド社員による技術・生産指導等)を行ないました。 ・生産台数:99年50台 00年350台 01年750台 02年1,000台 ・Thai Wheelで生産した車いすの買い上げ → タイの障害児への寄贈(150台) → 他NGOと連携し、アフガニスタンの障害児への寄贈(100台)
	12月10日~16日	タイの車いす工場「Thai Wheel」にタイ、マレーシア、ラオス、アフガニスタンの車いす技術者14名を招聘し、「車いす製造・修理トレーニング」を開催しました。
障害者スポーツ交流事業	9月28日~29日	デンソー本社体育館にて「あいおい損保・WAFCA車いすバスケットボール日本・タイ交流大会」を開催しました。 ・タイから2チーム、愛知県、静岡県から6チームが参加
	11月24日~30日	タイ バンコク市郊外のランシット大学体育館にて、タイのコーチ、選手24名を対象に、車いすバスケットボールの指導者養成研修を開催しました。
	2月27日~28日	タイ バンコク市 Thai Japan Gymnasiumにて「車いすバスケットボール大会 Thailand Open」を開催しました。 ・タイ、日本、ラオス、シンガポールの4ヶ国が参加 ・大会期間中、日本で収集したバスケットボール用車いす11台を寄贈
障害児教育支援事業	6月~	他NGOと連携し、車いすと奨学金をセットにした障害児教育支援プログラムを立案するため、2月にタイ東北部において現地調査を実施しました。
広報・啓発事業	2月20日~24日	タイでの活動視察及び車いす修理活動を目的としたタイフレンドシップツアーを催行し、会員33名が参加しました。
	3月15日	車いす製造及び障害者福祉に対する理解を深めることを目的とした国内フレンドシップツアーを催行しました。

WAFCAの活動は、会員の皆さんの会費によって支えられています。一人でも多くの皆さんのご協力をお願いいたします。加入状況:2003年2月末現在950口

## 「デンソー太陽」

障害者に働く場を提供し、社会参加と自立を支援するため、1984年に社会福祉法人「太陽の家」と共同出資で愛知県蒲郡市に設立。工場内は全てバリアフリーで、車いすの高さに合わせて昇降する作業台など、設備・治工具なども障害にあわせて医学的、労働科学的な配慮がなされています。工場では、約200名の方が軽自動車用メーターの組付けや関連部品の加工に従事しており、障害者の自立の場として、そして高品質な製品を安定的に供給する優良会社として知られています。また、スポーツ・レジャーイベントなどには当社の社員もボランティアとして参加し、交流を深めています。

生産金額(2001年) 44億円 生産台数(2001年)コンビネーションメーター=91万台・フューエルセンサー=264万台

イベント	実施日	内容
納涼大会	8月3日	デンソー太陽敷地内で開催される「納涼大会」、18回目の2002年も多くの露店が並び、1,000人を超える人で賑わいました。デンソー社員をはじめ地域からも多数の参加があり交流を深めました。
あいおい損保・WAFCA車いすバスケットボール日本・タイ交流大会見学会	9月28日、29日	デンソー本社体育館であいおい損保杯WAFCA車いすバスケットボール日・タイ交流大会が行われ、愛知太陽の家車いすバスケットボールチーム「SUNS BBC(サンズバスケットボールクラブ)」も出場しました。デンソー太陽関係者38名が応援にかけつけ、選手達に声援を送りました。
フェスピック大会観戦ツアー	10月25日~28日	釜山で行われたフェスピック大会の観戦ツアーを実施しました。現地では、別府・京都太陽の家の人たちとも合流、皆で楽しく応援合戦を繰り広げました。

## 「大分国際車いすマラソン大会の支援」

当社は1991年の第11回大会より協賛企業として大会運営をサポートしています。

第22回となる2002年も、大会への協賛をはじめ、従業員ボランティアが中心となり、以下の支援活動を行いました。

事業	実施日	内容
運営ボランティアの派遣	10月20日	13名の社員及び家族がボランティアとして参加し、スタート地点・コース沿道の観客整理、選手の介護、会場の後片付けなどを実施しました。
大会参加選手の練習サポート	10月6日、13日	社会福祉法人「太陽の家」愛知事業本部から大会に参加する7名の選手を支援するため、西尾製作所の工場敷地を開放し、練習の場として活用してもらいました。9名の社員ボランティアが選手のタイムキーパーなどの支援をしました。

## 地域の社会福祉施設との交流・支援

事業	開催年月	内容
障害者施設「くるみ会」への業務委託	1999年10月~	冷暖房製造2部がヒータコア製造時に発生するパッキンの裏紙の裁断とポリ袋への封入作業を「くるみ会」に業務委託し、その製品を梱包用のクッション材として再利用しています。
障害者授産施設「さくらワークス」の支援	2000年12月~	愛知県豊田市にある身体障害者通所授産施設「さくらワークス」が製造するクッキーを会社の贈呈品として活用し、障害者の自立を支援しています。
NPO法人「パンドラの会」の支援	2001年3月~	愛知県刈谷市にあるNPO法人「パンドラの会」の障害者が製造するお菓子を、社内売店(刈谷生協)の協力を得て店頭販売し、障害者の自立を支援しています。
心身障害者授産施設「ポテトハウス」の支援	2001年4月~	愛知県安城市にある心身障害者通所施設「ポテトハウス」にて第3土曜日に開催される「ポテト市」で、社員ボランティアが本施設で製造しているお菓子の販売などをお手伝いしています。

# 青少年育成



## 「デンソー モノづくりフェスタ 2002」

次世代を担う子供たちにモノづくりの楽しさを体験してもらおうと、安城市高棚町の高棚製作所で年に1回、「モノづくりフェスタ」を開催しています。2002年度は、小学生を中心に3000人を超える方々が来場して下さり、モノづくり体験にチャレンジしました。「普段なかなか経験できないことができてよかった」「自分でものづくりするのって楽しい」と、多くの子供たちが喜んで下さいました。催しには、デンソー短大の指導員・生徒、デンソー養護会の社員など、約120名が工作指導等のボランティアとして参加し子供たちをサポートしました。

実施日	イベント	内容
8月24日 (小学生向け)	ペットボトルカー工作	500mlのペットボトルを使って車をつくりました。
	プロペラカー工作	モーターと電池を使ってプロペラカーを作りました。
	おし花クラフト	おし花を使って、万華鏡やコースターなどを作りました。
	ケナフはがきづくり	ケナフパルプからはがきを作りました。
	木工作	木切れとくぎを使って動物や昆虫を作りました。
	オリジナルカレンダーづくり	パソコンを使って、写真やイラストを取り込んでオリジナルカレンダーを作りました。
	新聞紙でつくる巨大熱気球づくり	10人1チームで新聞紙を張り合わせ、高さ3メートルの巨大熱気球を作りました。完成後グラウンドで打ち上げ実験をしました。
	技能五輪実演見学	旋盤、フライス、電子機器 など技能五輪選手の技のすばらしさを見学。
技能体験コーナー	図面から実物を探したり、形状、材質の違いによる重さの計測など、モノづくりを考え、楽しみながら体験できるクイズコーナーを設置しました。	
8月25日 (中・高校生向け)	電子時計工作	電子部品を半田づけしてデジタル時計をつくりました。
	オリジナルキーホルダーづくり	金属加工してキーホルダーや携帯ストラップを作りました。
	万華鏡づくり	金属加工した筒を使って万華鏡を作りました。
	オリジナルマウスパッド	パソコンでデザインを考え、マウスパッドを作りました。
	オリジナルアクセサリ	樹脂粘土を使ってネックレスやブローチを作りました。
	アクリル工作	アクリル樹脂を切ったり、曲げたりして、一輪ごしや携帯電話立てを作りました。
ペーパークラフト	紙を使って動物などを作りました。	

## 「少年少女発明クラブ」支援

デンソーの社員が講師や工作指導ボランティアとなり、地域の少年少女発明クラブの活動を支援しています。発明クラブの小学生を対象に、科学への興味を引き出し、自分の手でモノづくりをする楽しさを知ってもらうために、以下のような創造学習のサポートをしました。

事業	実施日・会場	内容
刈谷・西尾・安城 発明クラブ交流講座	8月24日 高棚製作所	「デンソーモノづくりフェスタ2002」のプログラムのひとつとして、刈谷・西尾・安城発明クラブの交流講座「新聞紙でつくる巨大熱気球づくり」を開催しました。子供たちが協力して作った高さ3メートルの気球が、子供たちの大歓声とともに見事に大空に打ちあがりました。 (小学生 43名参加。社員ボランティア7名参加。)
大安町子供発明クラブ モノづくり啓発イベント	12月1日 大安製作所	「大安モノづくりフェスタ」を大安町中央児童センターと共同で開催しました。万華鏡づくりやプロペラカーづくり、木とブリキでできるミニ水車など、身近な素材を使ったおもちゃづくりを楽しみました。 (町内の親子160名が参加。社員ボランティア50名参加。)
刈谷少年発明クラブ デンソー特別講座	12月22日 刈谷少年 発明クラブ	「音の世界に触れてみよう - 電子ピアノ工作 -」講座を開催しました。音の波形をみる「オシロスコープ実験」や警報用携帯ブザーを使った「ドップラー効果実験」等を行ったあと、半田ごてを使って電子ピアノ工作に挑戦しました。 (小学生 39名参加。社員ボランティア16名参加。)

## 「ファミリーオープンハウスデー」

日頃、お父さんお母さんの仕事内容を知らない子どもたちに対し、職場を見てもらうことによって、理解を深めてもらうというイベントです。デンソーの全製作所で毎年開催しています。(340家族1,166名参加)

製作所	実施日	内容
大安	8月8日	職場見学、針金でつくる“モビール”づくり、ヘリコプター搭乗体験 (62家族176名参加)
本社・池田	8月8日、9日	職場見学、ショールーム見学 (132家族493名参加)
阿久比	8月22日	職場見学、工場見学、キーホルダーづくり (11家族31名参加)
幸田	8月23日	職場見学、音センサ付ロボット工作 (18家族62名参加)
西尾	9月16日	職場見学、リサイクルセンター見学、電動2輪車(ワッパ号)工作 (65家族230名参加)
高棚	9月16日	職場見学、排水処理場見学 (8家族31名参加)
豊橋	9月23日	職場見学、模型飛行機づくり、プレジャーボート搭乗体験 (10家族34名参加)
安城	9月23日	職場見学、モノづくり体験(ソーラーカー、ラジオ、ビーズアクセサリ) (19家族59名参加)
基礎研究所	11月4日	職場見学、樹脂工作(マグネット・キーホルダー・ボールペン)、実験施設見学 (15家族50名参加)

## 「地域イベントへのからくり作品 出展」

社内で2年に1回行われるアイデアコンテスト「夢駆(ムーラン)」の出品作品等を地域の創造性啓発イベントに出展協力しています。地域の子供たちにモノづくりへの関心をもってもらえればと考えています。

イベント	実施日	会場
犬山おもしろからくりロボット展(6作品展示)	3月30日～ 4月7日	犬山市文化史料館
トヨタグループアイデアコンテスト作品展(2作品展示)	4月16日～ 4月21日	産業技術記念館
安城市制50周年安城市民博覧会(2作品展示)	10月26日～ 10月27日	安城市総合体育館

# 環境保全



## 「デンソー環境教育プログラム エコレンジャー21」

次世代を担う子供たちを対象に、「緑・水・大気」をテーマに、身近な自然を題材にして、楽しく環境保全の大切さを理解してもらおうという考え方で開催しています。2001年度から始まった刈谷コースに加えて、2002年度より西尾・幸田コースも新設し、4月から11月にかけて5講座1シリーズで多彩な講師を招いて開催しました。のべ81名の社員ボランティアが参加し子供たちをサポートしました。

【刈谷コース】参加者：愛知県刈谷市在住の小学校4年生から6年生 40名(募集後抽選)。

後援：刈谷市、刈谷市教育委員会 協力：刈谷青年会議所 刈谷市の富士松北小学校に隣接する「北っこの森」を中心に自然を体感しながら学びました。

回	講座名	実施日	内容・会場
1	森のフシギ発見	4月21日	土の中の自然に着目して土を掘り調べ、木の根や土の中の生き物を調べました。日ごろ見ることのない土の中の不思議を知りました。 北っこの森(刈谷市 富士松北小学校隣接)
2	水辺の生き物調べ ゲンジボタルの観察	6月1日	生き物調査やホタル鑑賞を通じ、清らかな自然の大切さと水をきれいにする「自然の力」「人の知恵」を学びました。 デンソー善明製作所敷地内ビオトープと平原近辺(西尾市)
3	ソーラーカーを つくろう	7月27日	「地球環境問題とは?未来のエコカー」をテーマに環境にやさしいエコカーを考えました。太陽電池を使ったソーラーカーづくりも行いました。 刈谷少年発明クラブ(刈谷市)
4	街の環境探検 (親子参加)	10月5日	広い公園の中を親子で水質検査をしたり、生き物を採取しながら歩きました。身近な自然の中で多くのことを発見しました。 洲原公園(刈谷市)
5	竹で大きなモノを つくろう	11月2日	竹林を間伐し、その竹材で木の実を転がす大きなオブジェを作りました。刃物の使い方を学び、大きな竹と格闘しながら自然を相手に作業することの楽しさを体感しました。 北っこの森(刈谷市 富士松北小学校隣接)

【西尾・幸田コース】参加者：愛知県西尾市と額田郡幸田町在住の小学校4年生から6年生 40名(募集後抽選)。

後援：西尾市、西尾市教育委員会、幸田町、幸田町教育委員会 「西尾いきものふれあいの里」を中心に自然を体感しながら学びました。

回	講座名	実施日	内容・会場
1	葉っぱのフシギ	5月18日	葉っぱを集めて、ゲームをしたり、分類したり、食したり。葉っぱを通して森林の役割を考えました。 西尾いきものふれあいの里(西尾市)
2	水辺の生き物調べ ゲンジボタルの観察(親子参加)	6月8日	生き物調査やホタル鑑賞を通じ、清らかな自然の大切さと水をきれいにする「自然の力」「人の知恵」を学びました。 デンソー善明製作所敷地内ビオトープと平原近辺(西尾市)
3	川で遊ぼう	7月20日	自然のままの小川で「ぼんつく」(魚捕り)を体験、午後は大きな川でドロまみれになりながらの川遊び。きれいな水にしがたかない「ヨシボリ」も発見できて自然を育むこと、自然を守ることの大切さを実感しました。 西尾いきものふれあいの里(西尾市)
4	ソーラーカーを つくろう	9月7日	「地球環境問題とは?未来のエコカー」をテーマに環境にやさしいエコカーを考えました。太陽電池を使ったソーラーカーづくりも行いました。 デンソー善明製作所(西尾市)
5	どんぐりの世界	10月19日	どんぐりを拾い、観察し、各々がどんぐり図鑑を作りました。昔の人が食糧としていたどんぐりを食べながらその後ろにある自然の営みに思いを馳せました。 西尾いきものふれあいの里(西尾市)

## 刈谷市「小堤西池カキツバタ群落自然保護活動」

国の天然記念物としても指定されている刈谷市北部の「小堤西池カキツバタ群落」。「カキツバタを守る会」により保護活動が行われてきましたが、当社のボランティアも1996年から参加し、「を守る会」の皆さんと一緒に作業をしています。

実施日	内容
4月27日	湿原周辺の草刈り (刈谷ヨタグループ社員19名参加。内デンソー社員ボランティア8名参加)
5月18日	ボランティアイベント 「カキツバタふれあいウォークラリー」開催 (84名の市民が参加。デンソー社員ボランティア28名参加)
9月7日	湿原内の草刈り (刈谷ヨタグループ社員17名参加。内デンソー社員ボランティア6名参加)

## 西尾市

### 「平原ゲンジボタルの里保存活動」

当社西尾製作所は1995年から「平原ゲンジボタルの里」を守るボランティア活動に参加。翌1996年には保存会の会員登録をしました。保存会では、ゲンジボタル生息区の草刈りを行うなどの活動を通じ、地元の方と共に自然を守るお手伝いをしています。

実施日	内容
4月20日	「タケノコまつり」設営準備(鯉のぼり取り付けなど) (社員ボランティア17名参加)
6月7日～15日	「ホタルまつり」運営サポート(駐車場整理など) (社員ボランティア53名参加)
9月21日	「芋煮会」運営サポート (社員ボランティア18名参加)

## 衣料回収活動

社員、市民の家庭で眠っている衣料を回収し、NPO法人日本救援衣料センター(大阪市)を通じてアジア・アフリカ・南米の恵まれない方に贈っています。衣料の回収、分別、箱づめには多くの社員ボランティアが参加しました。(1993年から、当社で始めた活動が、その後他の製作所にも広がり毎年春と秋の衣替えの時期に実施)

会場	実施日	内容
本社 大安製作所	6月8日、14日	ダンボール箱970箱の衣料品を回収 カンパ金897,000円とともに寄贈 (社員ボランティア123名参加、衣料提供者610名)
本社 阿久比製作所 幸田製作所	10月5日、 26日、27日	ダンボール箱785箱の衣料品を回収 カンパ金893,000円とともに寄贈 (社員ボランティア133名参加、衣料提供者679名)

## 従業員ボランティア支援



### ■ マッチングギフト

役員・社員が、個人またはグループで社外の公益団体に寄付した時、寄付先が会社の支援対象と認められた場合、会社から同額を上乗せ(マッチング)して寄付する制度です。

2001年度(2001年4月～2002年3月)は、120件が活用され、37団体への寄付を行いました。

### ■ ボランティア休暇・休職制度(青年海外協力隊参加支援制度)

青年海外協力隊への参加期間の約2年間の休職を認める制度です。

本制度を利用して青年海外協力隊に参加しているのは2名です。(2003年2月時点)	赴任先	内容
	マラウイ共和国	セカンダリースクール(日本の中3～高3)の理数系教師
	タンザニア連合共和国	職業訓練センターの電気科教師

### ■ デンソーハートフルクラブの活動

「デンソーハートフルクラブ」は、社員のボランティアグループとして1998年に発足しました。世話人を中心とした有志社員による自主運営組織で、製作所毎に組織化されています。自主企画活動の推進、地域のボランティア活動への参加、使用済み切手収集等の草の根活動など、各地域毎に工夫を凝らした活動を行っています。会社のボランティア支援センター(94年設立)が活動をサポートしています。

会員数 : 1,552名(2003年1月時点)

デンソーハートフルクラブ独自の企画、主催による活動

#### 【主な活動】

クラブ	実施日	内容
クラブ刈谷	5月11日 12月14日	老人保健施設「相生」の車いすの点検を実施(2回/年実施 25名/回参加)
クラブ安城	10月5日・6日	安城市福祉まつりでの「車いす体験コーナー」担当 (17名参加)
クラブ西尾	4月6日～	ふれあいみかん園の整備(8回/年実施 約50名/回参加)
クラブ高棚	4月21日～	特別養護老人ホーム「ハビリス ーツ木」慰問 毎月第3日曜日(12回/年実施 8名/回参加)
クラブ大安	7月6日～	大安町スポーツ公園周辺清掃活動(4回/年実施 30名/回参加)
クラブ幸田	10月27日	衣料回収活動(22名参加)
クラブ豊橋	10月20日	デンソーとよはし「スマイルフェスタ2002」「はあとふるバザー」(7名参加)
クラブ阿久比	6月15日	心身障害者小規模授産施設「もちの木園」の草刈りボランティア活動(9名参加)
クラブ基礎研	4月2日～	タバコ銀紙回収活動 (集計:2回/年 8名/回参加)

地域で行われるボランティア活動への参加

各種ボランティア活動への参加者数 : ボランティア参加人員 02年度 約2,650名

#### 【主な参加イベント】

地域の清掃活動(河川、周辺道路、地下道など)	図書館ボランティア(本の貸し出し、整理整頓の補助)
地域の福祉まつりでのお手伝い(模擬店のお手伝い、交通整理など)	電友会スポーツ部による地域のスポーツ講習会補助
福祉施設でのお手伝い(夏祭りのお手伝い、外出時の付き添いなど)	電友会カラオケ部、日舞部、音楽部、民謡部などによる老人ホームの慰問
地域のスポーツイベントでの運営補助(マラソン大会、トライアスロン大会など)	

## 海外拠点の活動



### 海外拠点の活動

海外拠点においても、それぞれの地域において良き企業市民としての活動の輪が広がっています。デンソーの海外法人は企業市民として、地域の声に耳を傾け、豊かな地域社会づくりのためにさまざまな活動を展開しています。

主な活動	開催年月	内容
アメリカ 北米デンソー財団 設立	設立 2001年3月6日	デンソー・インターナショナル・アメリカ(略称:DIAM、所在地:ミシガン州サウスフィールド)など4拠点が、北米における社会貢献活動として「北米デンソー財団」を設立。主に技術系大学院や技術研究機関、災害発生時の緊急支援等に対して寄付を行っています。
DIAM Greening of Detroit (学校の緑化活動)	1999年～	DIAMは、1999年からデトロイトの緑化活動に寄付を行うとともに、地域の学校への植樹、花壇づくりに社員ボランティアが協力しています。30本以上の木の植樹、車いすの子供が花の手入れができるように工夫した花壇づくり、花壇への草花・球根の植付けに、2002年度は、社員18名がボランティアとして参加しました。
DMMI Breakfast Club (病院の支援)	2000年～	デンソー・マニュファクチュアリング・ミシガン(略称:DMMI)は、2000年から、毎月第3・4週木曜日、午前6時から退役軍人病院のための朝食を準備するボランティアを行っています。2002年度は、社員20名が参加しました。
DMMI Walk America (小児麻痺救済活動)	1991年～	DMMIは、1991年から小児麻痺救済のための募金運動に協力、募金活動をしながら、6.5マイルを歩く活動を行っています。2002年度は、社員約100名が参加し、毎年\$15,000～\$19,000を募金しました。
DMTN Great Smoky Mountains National Park Project (環境保全活動)	2000年～	デンソー・マニュファクチュアリング・テネシー(略称:DMTN)は、2000年からグレート・スモーキー・マウンテン国立公園の職員と共に公共の公園に植林をする活動を続けています。2002年度は、社員31名が参加しました。
DMTN Food Drive (食材提供活動)	2002年～	DMTNは、地域が行っている食材提供キャンペーンの一環で、4トンの保存食品を地域に寄贈しました。約650名が参加したこのイベントに、社員16名が参加しました。
DSCA Rebuilding Together (痛んだ家の修繕活動)	1998年～	デンソー・セールス・カルフォルニア(略称:DSCA)は、1998年から地域の恵まれない世帯(高齢者や障害者など)の家を1日ばかりで修繕する活動を行っています。2002年度は、社員20名が参加し、屋根修理や塗り替え、キッチン修理・掃除など、1日で14軒の修繕をしました。
DSCA AIDS Walk (エイズ救済活動)	1995年～	DSCAは、1995年からエイズに苦しむ人々に役立てようと、救済のための募金活動に協力しています。2002年度は社員25名が活動に参加しました。DSCAはマッチングギフトの制度を活用し、集まったお金と同じ額を寄付しています。
DSCA Thanks-giving Food Baskets (食材提供活動)	1996年～	DSCAは、1996年から地域の恵まれない世帯(高齢者や障害者など)に、感謝祭の食材を提供する活動を行っています。2002年度は、社員約250名が活動に参加しました。
DNMN Wild Life Park (環境保全活動)	1989年～	デンソー・マーストン(略称:DNMN)は、1989年から自然環境を体感できるエリアとして敷地の一部を地域住民に開放する活動をしています。植木や清掃には、地域住民も参加し、一緒に環境保全活動に取り組んでいます。
DIAU Keep Australia Beautiful Victoria (環境保全活動)	1996年～	デンソー・インターナショナル・オーストラリア(略称:DIAU)は、1996年から町の環境保全・史跡保全・リサイクル活動をすすめる団体へ寄付を行い、継続的に支援しています。

## デンソー 社会貢献活動の歩み

---

### 1984

- ・障害者の福祉工場「デンソー太陽株式会社」設立
- ・「オペレーション・ローリー」への協賛開始(～1988年)  
世界の若者が帆船で海外を一周し、科学・奉仕・冒険をする国際イベントに協賛

### 1990

- ・経団連「1%クラブ」へ入会
- ・「社会貢献活動委員会」発足  
社会貢献活動の方針・活動評価・報告の仕組みづくりを開始

### 1991

- ・会社スポーツクラブによる地域の「少年サッカー教室」を開催
- ・デンソーサンデースクール(デンソー短大の講座を中高校生に開放)開始
- ・会社施設の地域開放(体育館、グラウンド、テニスコートなど)開始

### 1992

- ・大分国際車いすマラソン大会への協賛・支援開始

### 1993

- ・「青少年交換ホームステイ」開始
- ・社会貢献パンフレット「CORPORATE CITIZENSHIP」発行

### 1994

- ・「デンソー基本理念」のなかで、「自然を大切に、社会と共生する」が方針として掲げられる
- ・総務部内に「ボランティア支援センター」を設立  
社員の自主的な社会参加活動の支援を開始
- ・「青年海外協力隊参加支援制度」導入

### 1996

- ・「骨髄提供者に対する休暇制度」導入

### 1997

- ・「デンソービジョン2005」で、「社会の共感を呼ぶ企業づくり」が重点課題として掲げられる
- ・「社会貢献の基本方針」策定  
社会貢献活動の理念、基本目標、重点3分野(障害者福祉、青少年育成、環境保全)を設定
- ・少年少女発明クラブに対する講座開催支援開始
- ・「ファミリーオープンハウスデー」開始

### 1998

- ・「デンソーハートフルクラブ」設立  
社員有志によるボランティアグループを組織化
- ・「マッチングギフト・ファンド」導入

### 1999

- ・NPO法人「アジア車いす交流センター」設立

### 2000

- ・社会貢献活動に関する評価システムを導入

### 2001

- ・NPOと連携し地域の小学生を対象とした体験型の環境教育プログラム「ECOレンジャー21」開始
- ・青少年創造性啓発プログラム「デンソーモノづくりフェスタ」開始
- ・社会貢献パンフレット「ともに歩む社会へ。」発行

### 2002

- ・「企業の社会的責任(CSR)」に取り組むため、ワーキンググループを発足
  - ・OB会員によるボランティアグループ「ハートフルクラブ 弥栄寿会」が発足
  - ・「ボランティア人材バンク制度」が発足
-